

平成 28 年度第一種動物取扱業（種別「展示」）における動物由来感染症調査結果

1 はじめに

動物園におけるふれあい展示については、不特定多数の利用者へのふれあい動物由来の感染症発生の危険性があり、衛生管理等についてガイドライン等が示されている。

そこで、ふれあい展示を行う動物取扱業者に衛生管理面での自主管理の考え方を普及し、動物由来感染症発生の未然防止を図る一助とするため、動物園のふれあい動物の病原体保有状況調査を行った。

2 調査対象

動物園（A及びB）において、ふれあい展示に用いられている動物の糞便を対象に病原体保有状況調査を行った。

表 1 対象施設別検体数（平成 28 年 5 月現在）

	動物種			
	ヤギ	ヒツジ	ウシ	ブタ
A	7	2	1	3
B	8	—	—	—

3 調査実施日

平成 28 年 5 月

4 検査項目及び検査方法

病原体保有状況調査の検査項目及び検査方法は、表 2 のとおりである。

表 2 検査項目及び検査方法

検体	検査項目	検査方法
糞便	サルモネラ カンピロバクター	分離培養法
	病原大腸菌 毒素原性大腸菌（E T E C） 病原血清型大腸菌（E P E C）※ 腸管出血性大腸菌（E H E C）	P C R 法ならびに分離培養法の併用

5 実施機関

- (1) 検体採取：動物園担当者
- (2) 動物園への助言指導等：動物愛護相談センター
- (3) 検査実施機関：健康安全研究センター微生物部病原細菌研究科寄生虫・動物由来感染症研究室
- (4) 連絡調整等：健康安全部環境保健衛生課

6 結果

病原体保有状況調査の結果は、表3のとおりである。

対象動物全てにおいて、調査対象とした病原体は検出されなかった。

表3 病原体保有状況調査結果

対象動物	検体数	陽性検体数				
		サルモネラ	カンピロバクター	病原大腸菌		
				毒素原性大腸菌 (ETEC)	病原血清型大腸菌 (EPEC)	腸管出血性大腸菌 (EHEC)
ヤギ	15	0	0	0	0	0
ヒツジ	2	0	0	0	0	0
ウシ	1	0	0	0	0	0
ブタ	3	0	0	0	0	0